

# 2026年度 成城大学大学院 文学研究科 I 期 入学試験問題

日本常民文化専攻 博士課程前期

## 《 文化人類学 》

I. 近年のデジタル文化やオンラインコミュニティの急速な発展にともない、文化人類学や民俗学でもこれらを対象とした研究が活発に行われている。そこで、あなた自身がデジタル文化やオンラインコミュニティに焦点を当てた研究を構想するとした場合（テーマやトピックは自由）、その概要を、以下の4点に分けて具体的に記しなさい。①研究題目（研究テーマを簡潔に表現するタイトル）と②研究目的（どのような問題意識に基づき、何を明らかにしようとするのか）、③研究方法（どのような方法・手法で調査・分析を行うのか）、④予測される成果（研究によって得られる知見や学術的意義）。

II. 次の語句のうち 2つ を選んで、その意味を説明しなさい（選んだ語句の記号を解答の前に記すこと）。

- (1)「サピア=ウォーフの仮説」Sapir-Whorf hypothesis
- (2)「ポトラッチ」potlatch
- (3)「暗黙知」tacit knowledge
- (4)「伝統の創造」invention of tradition
- (5)「現世利益」

\* 以下の問題は、文化人類学を第1選択とする者のみ解答すること。

III. 次の人物のうち 1人 を選んで、主要な調査研究地や研究領域、著作（編著書を含む）、提唱した理論や方法論、その後の人類学研究におよぼした影響など、できるだけ詳細に説明しなさい（選んだ人物の番号を解答の前に記すこと）。

- (1) ルース・ベネディクト (Ruth Benedict)
- (2) ヴィクター・ターナー (Victor Turner)
- (3) マルセル・グリオー (Marcel Griaule)
- (4) 石田英一郎